

進路情報

希望 6号

令和 6年 6月12日 (水)

那覇市立松城中学校

《全学年》夢は全力の向こう側にしかない (齊須政雄)

◇「高等学校」について知ってほしい、「基本のキホン」◇

進路情報「希望 2号」でも紹介したとおり、令和5年3月の県内の中学校卒業者のうち、上級学校への進学率は「97.5%」。そのほとんどが「高等学校」への進学です。一言で高等学校といっても、学校の設置者や学校での活動時間、学ぶ内容にちがいがあります。

今回の進路通信では、高等学校についての基本的な情報を紹介します。



その① 「設置者の違い」による高校の種類

公立高校	都道府県など地方自治体が設置した高等学校。同一県内において格差が生じることが無いように都道府県が主に（ほかの都道府県では市町村も）設置しています。沖縄県内の公立高校は県が設置する「沖縄県立高校」が59校あります。
私立高校	民間による「学校法人」が設立した高校です。沖縄県内にもいくつかの私立高校（全日制高校・通信制高校）が存在しており、何を重視してどんな教育をするのかという教育方針が各学校によって異なります。 私立高校では建学の精神や理念によって、その校風は様々です。私立高校では公立高校と比べて「普通科」の割合が多く、最近は普通科の中をさらに細分化し、コース制を設置するなど、目標とする大学に合わせてカリキュラムを組んで進学指導体制を整えている高校が増えています。 部活動などで非常に優れた実績を持つ高校、心の教育に力を入れている高校など、進学実績だけでなく様々な角度から学校選びができるのも私立高校の魅力です。私立高校は学校の数だけ校風・特色などスタイルが違います。

その② 「登校時間・学習方法の違い」による高校の種類

全日制	定時制	通信制
<ul style="list-style-type: none">平日の昼間に授業を行う修業年限…基本的に3年登校日数…週5日通学時間…朝	<ul style="list-style-type: none">夜間や午前中のみ授業を行う修業年限…基本的に4年登校日数…週5日通学時間…午前部 朝 夜間部 夕方	<ul style="list-style-type: none">通信教育による学習を行う修業年限…3年以上登校日数…学校やコースによって異なる

詳しい説明やメリット・デメリットは、裏面で紹介しています。

<p>全日制 高校</p>	<p>高校の最も一般的なスタイルになっています。小学校や中学校と同様、朝に登校し、夕方に下校するスタイル。1日に5～7時間の授業があり、就学年度は3年。基本的には決められた制服が校則で定められていますが、制服を制定していない全日制高校【真和志高校】も見られます。</p> <p>メリット……学校の数が多くて、さまざまな学校を選ぶことができます。さらに、学校行事や部活動が活発で、生徒が多く、友達作りやすい環境です。いわゆる高校生活を楽しめるのが魅力です。</p> <p>デメリット……学校数は豊富ですが、入学試験があるので、自分の学力にあった学校しか選べません。また、多くの学校で学年制を採用しているため、留年して同じ学年を繰り返すこともあります。</p>
<p>定時制 高校</p>	<p>仕事と学業の両立を趣旨とし、夕方から4時間の授業を行なうのが主流ですが、午前中に4時間の授業を行う学校【泊高校・午前部】もあります。最近では、必要に応じて補習を行なうスタイルも誕生し、全日制には通えない生徒を多様な形でカバーしています。</p> <p>メリット……1日あたりの授業時間が少ないため、自由になる時間が豊富にあります。仕事やアルバイトなどと両立できるので、自分で学費を稼ぎながら通学することもできます。また、学習内容は比較的やさしく、勉強が苦手な人でもチャレンジできます。</p> <p>デメリット……一般的に定時制高校は卒業まで4年かかります。補習を受けることで早く卒業できることもあります。また、授業内容が全日制の学校に比べ、基本的な内容になることが多いため、大学進学を考えている人には学習内容が不足します。大学進学を目指すには、高校とは別に予備校などに通う必要があるでしょう。</p>
<p>通信制 高校</p>	<p>通信教育（テレビ・ラジオ等の活用）によって教育を受ける課程。基本的には自宅で自学自習を行なうため、個々に合ったペースで学習し、卒業資格を取得するのが一番の特徴です。科目ごとに出された課題（レポート）をすべて提出するほか、「スクーリング」と呼ばれる面接指導と試験を繰り返し、高校卒業を目指します。勤労者や不登校者、高校に進学できなかったケースでも教育を受けられるといった利点がありますが、ペースを守って自分で学習を続けるなど自己管理が重要なポイントとなります。</p> <p>メリット……自分のペースで学習ができ、自分の時間を確保しやすい。</p> <p>デメリット……生徒間の交流が少ない。卒業には自己管理が求められる。進学には学校の勉強だけでは難しいため、予備校などへ通う必要がある。</p>

その③ 「学習内容の違い」による高校の種類

<p>普通科</p>	<p>中学校で学んだ教科を基本に、さらに幅広く、高度な内容の学習を行ないます。主な教科は「国語」「外国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」「保健体育」「芸術」「家庭」「情報」など。専門性に特化することなく、基礎的な科目を幅広く学びます。</p>
<p>専門学科</p>	<p>将来の進路に応じて職業教育を主とする学科です。専門学科には「農業」・「工業」・「商業」・「水産」・「家庭」・「情報」・「福祉」などに関する学科のほか、「理数科」や「芸術」、「体育」・「外国語」の内容をさらに高度化させた学科などもあります。学習を通して、さまざまな資格にもチャレンジしている学科も多いです。</p>
<p>総合学科</p>	<p>国語、数学などの普通教科を中心に学ぶ「普通科」と、農業・工業・商業・家庭・福祉などの専門教科を中心に学ぶ「専門学科」に並び、第三の選択肢として沖縄県では平成7年に導入されました。（現在は陽明高校・嘉手納高校・沖縄水産高校に設置）総合学科では、生徒の個性や得意分野を生かした「個性を生かした主体的な学習・自己の進路希望を深める学習」を重視しており、大学のカリキュラムのような特色があります。1年次は必修科目を中心に、2年次以降はコースに応じた選択科目を中心に学びます。</p>